

事例3 「書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の關係に注意したりして、文章の構成を考えること」をねらった事例

○学年 第4学年

○主な領域 【思考力、判断力、表現力等】B 書くこと

○事例のポイント

- ①どの児童も意欲的に要約することができるように、教師による具体例を提示したり児童の作品を活用したりするなど、スモールステップで学習を進めるようにする。
- ②社会科の「地域の伝統と文化」に関連した単元を設定することで、他教科との関連を図りながら教科横断的な学習を充実し、言語能力の育成を図るようにする。
- ③「伝統工芸のよさを友達に自慢する」という相手意識・目的意識をもたせ、そのよさを伝えるために必要な情報は何か、語や文の取り出し方はどうするのか等を丁寧に扱う。理由や事例と、伝えたいこととの関わりが分かるようにリーフレットに工夫して書けるようにする。(全国学力・学習状況調査等の課題と関連)
- ④調べた情報を整理する際に、情報共有アプリの付箋機能やスライド機能をグループや学級全体での共有に活用する。

- 1 **単元名・教材名** 中心となる語や文を見つけて要約し、調べたことを書こう
～「すごいぞ！さいたま自慢リーフレット」伝統工芸のよさを伝えよう～
「世界にほこる和紙」「伝統工芸のよさを伝えよう」

2 児童の実態と本単元の意図

本学級の児童は、6月に実施した「思いやりのデザイン／アップとルーズで伝える」を扱った単元で、双括型の文章構成や段落相互の關係を確かめ、筆者の考えを捉える学習をしてきている。「要約するとき」では、要約の方法について学習をしてきた。これらの学習を通し、文章構成や段落相互の關係を確かめ、話題や事例、筆者の考えがどこに書かれているかを捉えることができる児童が増えてきた。また、簡単な文章の中から中心となる語や文を見付け、自分なりに要約ができる児童も増えてきている。しかしながら、要約には個人差が大きく、図書やインターネットから選んだ文章の要約になると、中心となる語や文を見付け出すことさえ困難だったり、要約する方法が十分に理解できていなかったりするという課題が見られる。

本単元では、教科横断的な視点から社会科の「地域の伝統と文化」に関連した単元を設定した。まず、「世界にほこる和紙」で筆者の説明の仕方や文章の内容を丁寧に捉えさせた後、文章の内容を端的に説明するといった要約の目的を意識させ、中心となる語や文を選び、分量などを考えて要約する力を高める学習を繰り返し行う。その後、ここで捉えた説明の仕方の工夫をこの後の「書くこと」の学習で生かすことによって、その効果に対する理解を深めていく。ここで扱う「世界にほこる和紙」と「伝統工芸のよさを伝えよう」とでは要約の性質が異なる。「世界にほこる和紙」では、筆者が伝統工芸のよさを読み手に伝えるために必要な語や文を確かめ、元の文章の組み立てを生かして短くまとめるものである。それに対し、「伝統工芸のよさを伝えよう」では、自分が関心をもった伝統工芸の「魅力」を読み手に紹介するために必要な情報を、図書や事典から見付け出し中心となる語や文などを考えながら文章の組立てを考え、整理しまとめるもので、児童にとってはより困難なものになる。

そこで指導に当たっては、「世界にほこる和紙」での文章構成を「リーフレット作り」の構成に活かしつつ、二つの要約の特性を意識しながら、どの児童も要約の力を伸ばせるように具体例を提示しながら丁寧な指導をする。「要約」の学習は既習ではあるものの、児童にとっては容易にできるものではないため、繰り返し学習し、定着を図っていく。「伝統工芸のよさを友達に自慢する」ために情報を整理し、より効果的な内容と構成となるよう意図的に設定する。

3 単元の目標

- (1) 比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方を理解し、使うことができる。 〈知識及び技能〉(2)イ
- (2) 書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の關係に注意したりして、文章の構成を考えることができる。 〈思考力、判断力、表現力等〉B(1)イ
- (3) 自分の考えとそれを支える理由や事例との關係を明確にして、書き表し方を工夫することができ

- る。 (思考力、判断力、表現力等) B(1)ウ
- (4) 言葉がもつよさに気付くとともに、幅広く読書をし、国語を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。 (学びに向かう力、人間性等)



4 本單元における言語活動



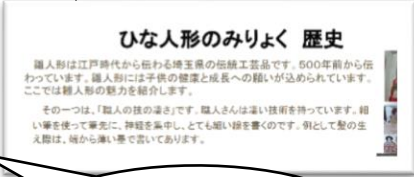
調べたことをまとめて報告するなど、事実やそれを基に考えたことを書く。(関連：言語活動例ア)

5 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方を理解し、使っている。(2)イ	①「書くこと」において、書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えている。 (B(1)イ) ②「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。 (B(1)ウ)	①進んで、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫し、学習の見通しをもって、調べたことなどを基に考えを書こうとしている。

6 指導と評価の計画 (全13時間扱い)

時	主な学習活動	学習内容	指導上の留意点・評価
1 5 6	1～6時において、社会科との学習を関連させ、日本の伝統工芸への興味を高める活動を行う。その後、「世界にほこる和紙」を読み、筆者の説明の仕方を捉えたり要約したりする。 ※本指導案では、「書くこと」を重点的に指導する内容とするため、省略する。		
7 8	<p>○紹介したい伝統工芸について、リーフレットにまとめる見通しをもつ。</p> <p>○調べたい伝統工芸を決める。</p> <p>○伝統工芸について調べ、「自分が考えるよさ」を伝えるために必要な構成要素を集める。</p> <p>「よさ」の構成要素</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実用性「使いやすさ」 ・芸術性「美しさ」 ・素材性「伸び縮み」 ・耐久性「長もち」 ・技術力「進化」など <p>事例のポイント② 社会科の地域の伝統と文化の学習と関連を図ることで言語能力を高められるようにする。</p> <p>○「百科事典での調べ方」を読み、百科事典の使い方を知る。</p> 	<p>○リーフレットの構成</p> <p>○題材の設定</p> <p>○情報の収集の仕方</p> <p>○情報の整理の仕方</p> <p>事例のポイント① モデルを提示し、意欲的な活動につながるようにする。</p>  <p>○百科事典の使い方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・必要な語句の書き留め方 ・引用の仕方 ・出典の示し方 <p>○情報の取捨選択</p>	<p>○「リーフレットの例」を参考に、必要な情報や文章構成について考えられるようにする。</p> <p>○調べたい伝統工芸が同じ者同士でグループになり、協力して調べることができるようにする。</p> <p>○整理した情報が足りないと感じたら、さらに調べるよう促す。</p> <p>【思考・判断・表現①】 ワークシート ・伝えたい内容を明確にしてリーフレットの構成を考えているかを確認する。</p> <p>○県立総合教育センターホームページ内「百科事典の使い方」を参照する。</p> <p>【知識・技能①】 観察・ワークシート ・百科事典の使い方を理解し、目次や索引を利用して情報を得ているかを確認する。</p>

	○リーフレット作りに必要な情報を整理し、グループで共有する。		【主体的に学習に取り組む態度①】 観察・発表の様子 ・図書や百科事典などを用いて進んで調べようとしているかを確認する。
9 ・ 10	事例のポイント④ ICT端末の付箋機能を活用することで、情報が可視化され、グループや学級全体での共有が効果的に行えるようにする。	○集めた情報の関係付け方 ○記述の仕方	○ICT端末の付箋機能とスライド機能を使う。 【思考・判断・表現②】 ワークシート ・調べたことを基に、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫しているかどうかを確認する。
	○付箋を基に、「自分の考えるよさ」についての文章の書き表し方を考える。	○構成の検討 ○写真や絵の生かし方	
	事例のポイント③ 調べたい伝統工芸について、第7時と同様の方法で「自分の考えるよさ」「理由」「事例」を関係付けることで、文章の書き表し方を考えることができるようにする。		
	○リーフレットにのせる文章の組み立てや資料を考える。 ○考えた組み立てを共有し、自分の構成を見直す。		
11	○下書きをする。 ○下書きを読み合い、互いに助言する。	○推敲の仕方	○ICT端末のスライド機能を使う。 【主体的に学習に取り組む態度①】 下書き原稿・共有の様子 ・共有を通して、伝えたいことが明確かどうかを見直そうとしているか確認する。
			
		編 P36 指導計画 作成の留意事項(10)	
12 ・ 13	○レイアウトを工夫し、リーフレットを作る。 ○表紙、裏表紙を作る。 ○リーフレットを完成させる。 ○ペアでリーフレットを読み合い、感想を伝え合う。 ○単元全体を振り返り、まとめる。	○レイアウトの工夫の仕方 ○清書の仕方 ○交流の仕方 ○交流の視点	【思考・判断・表現①】 リーフレット ・読み手に伝わるようにレイアウトを考えてリーフレットを書いているかを確認する。 ○交流の視点の共有化を図り、事後にも生かせるようにする。

7 本時の学習指導（本時9／13時）

(1) 目標

- 自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫することができる。
〈思考力、判断力、表現力等〉 B (1)ウ

(2) 評価規準

- 「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。

【思考・判断・表現】

(3) 展開

学習活動	学習内容	指導上の留意点・評価	時間
1 前時の学習を振り返り、本時の課題を確認する。		<ul style="list-style-type: none"> ○本時の流れを確認し、学習の見通しをもたせるようにする。 ○見本リーフレットを提示し、活動のイメージを膨らませられるようにする。 	3
<p>伝統工芸の「自分の考えるよさ」がみりよく的に伝わるように書き表し方を工夫しよう。</p>			
2 例文を基にした付箋を活用し、「よさ」「理由」「事例」の関係性が分かるような記述の仕方を確認する。(全体)	<ul style="list-style-type: none"> ○集めた情報の関係付け方 ○記述の仕方 	<ul style="list-style-type: none"> ○具体例を示すことで記述の仕方の共通理解を図るようにする。 ○ICT端末の付箋機能とスライド機能を活用し、まとめるようにする。 ○学習の記録が分かるように、ICT端末の画面を保存する。 	7
<p>3 前時までに書き上げた付箋を基に、「自分の考えるよさ」にふさわしい理由や事例の関係性が分かるような文章に書き表す。その後、「みりよく」がよく伝わるか確認をする。(個人→グループ)</p>	<p>事例のポイント③ 第7時と同様の付箋の関係付けを行うことで、文章の書き表し方をより分かりやすくする。</p> <p>〈期待される児童の反応〉 桐たんすの場合 桐たんすのみりよくは、「湿気をふせぐ」ことです。桐は、湿気を帯びると膨らんで、乾燥すると縮む性質があるのです。例えば、シルクやウール、カシミアといったデリケートな衣類やカメラの保管にむいています。</p>	<p>評価規準 【思考・判断・表現②】 ワークシート</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調べたことを基に、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫しているかどうかを確認する。 〈「努力を要する」状況(C)への手立て〉 ・理由や事例の関係性が明確になるよう記述できない児童には、話型入り補助シートを用いて指導する。 <p>○社会科の学習を想起させ、長く人々に使われている理由や伝統工芸師の願い・思いにも触れられるようにする。</p>	27
<p>4 本時のまとめをする。</p> <p>「自分が考えるよさ」に合った理由や例をくわえたり、人々の思いをくわえたりして文章を書くと、伝統工芸をよりみりよくてきに伝えられる。</p>			3
5 学習の振り返りをする。	<p>〈期待される児童の振り返り〉 今日は、桐たんすのよさの理由と例を友達に伝えました。友達から「桐がたんすに使われる理由がよく分かった。」と言われました。リーフレットにまとめるのが楽しみです。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○できるようになったこと、気がついたこと、これから生かしたいことなどを振り返らせ、次時への見通しをもたせるようにする。 	5
